

スモン患者の高齢化に伴う施術の変化

藤木 直人 (国立病院機構北海道医療センター神経内科)

大原 宰 (北海道保健福祉部健康安全局地域保健課)

藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)

藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)

稲垣 恵子 (公益財団法人北海道スモン基金)

高橋 敦子 (公益財団法人北海道スモン基金)

研究要旨

スモン患者の高齢化に伴い著しい筋力低下や新たな痛みなどの症状が出現していることには、スモン後遺症による長年の経過が大きいと今まで数々の報告がされている。鍼灸マッサージにおいても、その都度患者の状態や変化に応じて施術をおこなってきた。現在当治療室で施術をおこなっている9名のスモン患者の中で若年に発症した2名の約30年間の症状の変化と施術の変化を照らし合わせ今後のスモン患者への施術方法を検討した。スモン症状自体軽減はしても改善されず、加齢に伴い様々な他の症状が増えていく中でそれに合わせ施術内容を変化させていくとともに増えた症状に対し、施術時間や施術日数を増やしていき、患者の状態を維持するように検討していくことが必要であると考えられる。

A. 研究目的

当治療室では長年にわたりスモン患者に鍼灸マッサージを行ってきたが患者の高齢化に伴いスモン症状の変化や加齢による新たな症状が現れている。今回2名の患者の約30年間の症状の変化と施術の変化を照らし合わせ今後のスモン患者への施術方法を検討していく他、現在の症状に対する施術頻度についても回数増によって効果があるのかを検討する。

B. 研究方法

症例1 (表1) : 患者58歳女性、発症時8歳。歩行不能、下肢表在覚高度低下、異常知覚高度。以前は異常知覚の痛みや冷感に対し下肢の三陰交・足三里・血海・陰陵泉などの経穴を使い治療を行ってきた。H20年頃より左腰下肢L4-L5領域の痛みおよび異常知覚が増強。左腰部圧痛、硬結部位と脊際穴を脊柱に向け置鍼し、その後硬結部位と殿部から股関節にかけて圧痛部位に単鍼雀啄を行った。現在では加齢に伴う腰椎圧

迫骨折により、特に左下肢後外側の過緊張による痛みがあり、つかまり立ちなどの動作により上肢の力も強く使うため肩関節周囲・前腕の筋緊張が出現。以前の治療に加え、下肢の筋の過緊張部位に単刺で刺鍼。上肢の症状に対し三角筋・前腕部に単刺で刺鍼を行った。

症例2 (表2) : 62歳女性、発症時16歳。一本杖歩行、下肢表在障害中等度低下、異常知覚高度。以前はやや不安定ながらも独歩で、腰・下肢の中等度の締め付け感、痛み、冷感に対し治療を行ってきた。H16年頃より頸肩部、背腰部、膝、下腿の痛み冷感などの異常知覚が非常に強くなり、鍼治療など肌を露出する際には、ホットパック、赤外線治療器、電気ストーブを使って行っている。便秘も高度である。全身按摩を行い、頸肩部、背腰部の硬結部位、便秘に対して、腰部経穴の大腸俞、胞育に置鍼し、腹部は、水分、天枢、大巨と硬結部位に刺鍼した。H26年から顎関節症を発症し、また加齢に伴い腰下肢の症状も悪化した。以前の治療に加え顎関節部と、腰臀部硬結部位、胞育、臀

表1 スモン現状調査個人票 58歳女性

スモン症度	身体的合併症
歩行: 不能	白内障
下肢筋力低下: 高度	内外痔核
下肢痙縮: 高度	喘息
下肢筋萎縮: 中等度	圧迫骨折
上肢運動障害: あり	高脂血症
表在感覚障害: 範囲 乳以下 程度 触覚: 高度低下 痛覚: 高度低下	
下肢振動覚障害: 中等度	
異常知覚: 程度 中等度 内容 しめつけ、じんじん、痛み、冷感	
上肢知覚障害: 常にあり	
上肢深部反射: 正常	
膝蓋腱反射: 高度亢進	
アキレス腱反射: 正常	
胃腸症状: 程度 軽いが気になる 内容 時々下痢	

表2 スモン現状調査個人票 62歳女性

スモン症度	身体的合併症
歩行: 一本杖	白内障
下肢筋力低下: 高度	顎関節症
下肢痙縮: 軽度	腱鞘炎
下肢筋萎縮: 中等度	左黄班前膜
上肢運動障害: あり	
表在感覚障害: 範囲 乳以上 程度 触覚: 高度低下 痛覚: 高度低下	
下肢振動覚障害: 高度	
異常知覚: 程度 高度 内容 足底付着感、しめつけ、じんじん、痛み、冷感	
上肢知覚障害: 常にあり	
上肢深部反射: 正常	
膝蓋腱反射: 亢進	
アキレス腱反射: 亢進	
胃腸症状: 程度 ひどく悩んでいる 内容 常に便秘	

点の経穴に刺鍼した。以前は週1~2回1時間の治療も数年前から週3~4回になり昨年頃には治療箇所が多さから週4回中3回が2時間治療になっている。

C. 研究結果

症例1: 異常感覚の痛みや冷感に対し行った治療では、治療直後は治療前と比べわずかな痛みの軽減がみられ、冷感も少し和らいたが1日で戻った。治療回数を重ねるごとに少しずつ症状の軽減している時間が長くなる効果が表れた。H20年頃より増強した痛みに対しおこなっている治療でも以前と同様に治療直後は症状の軽減が見られた。

症例2: 以前は治療後数日間痛みが軽減していたが、症状が悪化すると治療効果は出なくなり、少しでも効果を出すため、温熱機器を増やし、ピワエキスジェルを使い末梢の循環を良くするマッサージをおこない、回数、時間も増やし治療することでなんとか酷く辛い状態にはならずにいる。

表3 スモン現状調査個人票 過去と現在の比較

58歳 女性

平成3年(33歳)	平成28年(58歳)
歩行不能	歩行不能
下肢表在覚高度低下	下肢表在覚高度低下
異常知覚高度	異常知覚中等度
上肢運動障害なし	上肢運動障害あり
脊椎疾患: なし	脊椎疾患: 圧迫骨折

62歳 女性

平成3年(37歳)	平成28年(62歳)
歩行独歩、かなり不安定	歩行一本杖
下肢表在覚中等度低下	下肢表在覚高度低下
異常知覚高度	異常知覚高度
上肢運動障害なし	上肢運動障害あり
四肢関節疾患: なし	四肢関節疾患: 腱鞘炎、顎関節症

D, E. 考察・結論

今回若年発症者2名の施術とスモン現状調査個人票のデータを元に施術の変化を検討したが、発症時成長期にあった若い患者も現在60歳代を迎え始め、以前にはなかった主に筋力低下による様々な症状が出てきている(表3)。スモン症状は2名とも病初期と比べて軽減しているものの、10年前と比べては悪化していると感じている。このことからスモン症状自体軽減はしても改善されず、加齢に伴い様々な他の症状が増えていく中でそれに合わせ施術内容を変化させていくとともに増えた症状に対し、施術時間や施術日数を増やしていき、患者の状態を維持するように検討していくことが必要であると考えられる。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし